

## PAWEES の活動と展望 Activity and Prospect of PAWEES

○松野 裕\*

Yutaka MATSUNO\*

### 1. 背景

国際水田・水環境工学会(International Society of Paddy and Water Environment Engineering: 通称 PAWEES)は 2003 年の設立以来、コアメンバーである農業農村工学会、韓国農業工学会、台湾農業工学会が中心となり、アジア発の水田稲作農業を核とした水環境分野における科学・技術振興を推し進めてきた。PAWEES が母体となって発刊する国際誌 Paddy and Water Environment (PWE)は、2009 年にインパクトファクター (IF) の付くジャーナルとして SCIE (ISI データベース) に収録され、現在まで IF1.0 以上を維持している。PAWEES 会長は 3 カ国が 2 年ごとに持ち回り、現在は農業農村工学会長の渡邊 紹裕 (京都大学) 氏が PAWEES 会長を兼任しているが、PAWEES 事務局は農業農村工学会内に 2011 年以降固定されている。

PWE 誌の刊行以外に、PAWEES が担う主要な機能に国際研究集会の開催がある。また、国際研究集会の開催期間中に、PAWEES 国際賞、PWE 論文賞、PWE レビュー賞の授与式が開催されている。国際研究集会は毎年 1 回、韓国農業工学会、台湾農業工学会、農業農村工学会が持ち回りで主催者となっているが、近年は農業農村工学会が主催する年はコアメンバー国以外で開催するように務めている。そこで、2009 年にインドネシア・ボゴール大学で開催したのを手始めに、2012 年はタイ国・王室灌漑局 (RID) で開催した。また、2015 年 8 月にはマレーシア・UPM で国際水田・水環境ネットワーク (INWEPF) と共同開催した。企画セッションではマレーシア集会の報告ができると思うが、より詳細な PAWEES の活動については <http://pawees.org/>を参照願う。

### 2. 最近の活動状況

2014 年の PAWEES 研究集会は、メインテーマを「モンスーンアジアにおける持続的な水と環境管理」とし 10 月 30 日～31 日に台湾高雄で開催された。PAWEES 国際賞には日本からは農村工学研究所の中 達雄氏およびペシャワール会代表の医師・中村 哲氏が受賞した。また、現地見学会では八田與一記念公園を訪問した。

---

\*PAWEES 事務局長: Secretary General of PAWEES, 近畿大学農学部: School of Agriculture, Kinki University  
キーワード: PAWEES, 水田・水環境工学

2015年4月には第7回世界水フォーラムが韓国で開催されたが、PAWEESはテーマ「食料のための水」の中で「農業と環境のための水質管理」についてのセッションをIFPRIと共催した。これには、日本PAWEES代表として飯田 彰（東京大学）氏が参加し日本の状況について解説した。また、ICIDが主催する「灌漑・排水スキームの近代化」についてのセッションのグループメンバーとして渡邊 紹裕会長が参加し、PAWEESの紹介とテーマに関連するPAWEESの取り組みについて発表した。

前述した2015年8月にマレーシアで開催された研究集会では、メインテーマを「持続的水・環境管理への解決策」とし、その中で次の6つのサブテーマを設けている：1) 持続的水利用と農業開発の技術、2) 灌漑・排水スキームの近代化、3) 食の安全保障と貧困削減のための持続的水田農業、4) 農業と環境のための水質管理、5) 統合的流域管理、6) 干ばつと洪水リスク管理。この中で、2)と4)は世界水フォーラムでPAWEESが参加したセッションと同じ名称であるが、これはセッションが第8回世界水フォーラムに向けたアクションプランの一環と位置付けられているためである。

### 3. 今後の展望

以上のように、近年のPAWEESはPWEと共に進展が見られ認知度も広がってきているが、今後はさらなる飛躍を期待したい。現在、コアメンバー国以外にもインドネシアと協力体制が構築されており、さらにタイもPAWEESへの積極的な参加の意思表示をしている。マレーシアも研究集会を主催した実績から、協力体制が構築されつつある。

また、PAWEESはその対象とする学術分野での成果を研究者間だけではなく、技術者や行政に向けて広く共有していく行動計画を策定することが求められている。それを踏まえれば、PAWEESは大学や研究機関の研究者のみならず今後はメンバー国の行政機関や国際援助機関などの実体のある連携を模索していくことが必要であろう。

一方、アジア地域、さらにはグローバル規模でPAWEESの活動の場を広げて行く中で、活動に不可欠な財政的基盤を確立することには常に困難が付きまとっている。PWEにおいても、投稿論文数が飛躍的に増加している状況でその管理体制の強化や掲載論文数の増加を考えた場合の財政的な負担増にどう対処して行くかの積極的な議論が必要であろう。他方、購読料収入のロイヤルティとしてSpringerからの年一回の支払いが3年目を迎えたが、幸いなことにこの金額は毎年上昇している。購読者の増加は財政状況の改善に直結することであり、今後もPWEの積極的な宣伝および知名度向上に務める必要があるだろう。